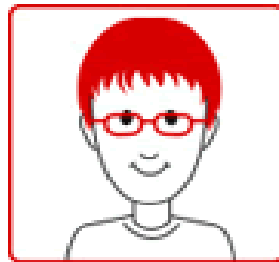


# 街場の就活論

## Vol. 5

### —新卒採用に今、何が起きているのか—

#### 団遊 (だん あそぶ)



#### 打倒！就活必勝法

キャリアの授業をしていて、力不足を感じるのは「相変わらずシューカツを勝ち抜く方法やその周辺事情」に学生が過反応する姿を目の当たりにすることです。たとえば今年は震災の影響や大学からの要請、経団連の申し合わせの影響で、就職サイトのオープンが12月に変更になりました。これまでは10月でしたから、2ヵ月後ろに倒れるわけです。

これに付随して起こる（であろう）変化が、周辺ではさまざま囁かれています。学生が参加できる企業説明会の数が減るだろうという話。企業の選考フローはそれでも不変だという話。インターンシップの位置づけを見直す企業も増えています。ちなみに、そのインターンシップも1day型と呼ばれる、学生の名簿集めを目的とした実務を伴わないものは、メディアを通じて公募できなくなりました。

学生にしてみると、シューカツは目前に控えた大イベントですから関心が高いことは理解できます。ただ、心のどこかで「そんな目先のイベント情報はどうでもいいから、もうちょっと骨のある話をしてよ」と言われることを期待する自分もいます。

例えるなら、就職サイトのオープン時期変更などロックフェスティバルの日程変更程度のことです。知ってさえいれば、大した影響はありません。フェスに間に合ったからといって、イベントを楽しめるかどうかは別問題です。

ところが学生は「ロックフェスティバルの楽しみ方」や「どのアーティストのファンになるのが得か」あるいは「休憩時間は何をすればいいか？」まで知りたがりです。そして、その情報を、さも勿体ぶって意味ありげに語っている就職コンサルタントが山ほどいて、彼らの主宰する「絶対内定就職塾」が大人気講座にな

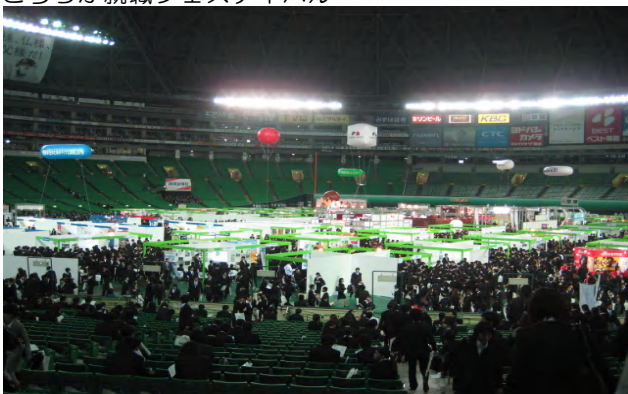
ります。

ロックフェスティバルの楽しみ方なんて、誰かに手ほどきされるものでもないだろうに……。そんなの楽しくないだろうに……。就職フェスティバルだって同じだろうと思うのですが、なかなかそうは思えないようです。

こちらがフジロックフェスティバルで、



こちらが就職フェスティバル



絵的にも、そう変わらないでしょ!?

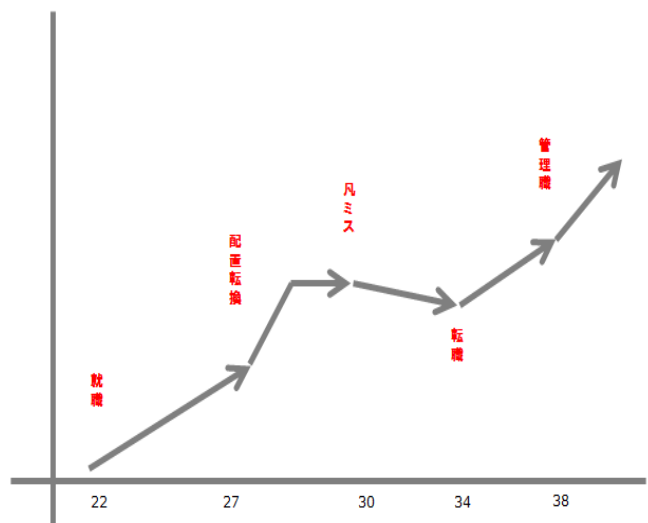
## もうちょっと 普通に考えようよ

なんとかしてノウハウ論ではないアプローチで学生が楽しめる授業にしたいなあ……。そんな試行錯誤の中でやってきたことの一つが最近、学生に好評なのでご紹介します。それは、自己評価によるスキルチャートをもとに、その変化点で何が起こったのかを想像して話し合うという授業です。

ある日、僕は友人のMを居酒屋に呼びつけ、食事を

おごりながら「Mの37歳までのキャリアの伸び具合をここに記してくれ」と頼みました。大学時代の友人である彼の職歴は、なんとなく知っています。ただ、そこに書いてもらったのは周知の事実ではなく、内面的に自己認識しているキャリア曲線です。隣で見ていると「そこで何があったんや!」と思わず突っ込みたくなる急激な上昇も見られ、誰に頼んでも、それなりに興味深い曲線になります。

こんな感じです



書き終わると、次にその曲線に沿って、曲がり角で何があったのかを教わります。大半は「そういうことあるな」ということですが、中には思いもよらないことで上下するケースもあります。言い換えれば、「そんなことで!」と私なら思うようなことが、彼にとっては転機になっていたりするのです。

## 気づき合いの中で キャリアがスタートする

転職、昇進、ボーナス、大きな責任……。これらはある程度わかりやすい転換点です。上がるか下がるかは別として、きっかけになることは容易に想像ができます。ところが、恋愛や趣味などがこれに絡むこともあるし、より細かいことで言うと、社内での席替えて変化が起こることもあります。私はサラリーマン経験がないためイメージができませんが、上司の資質もキ

キャリア構築にかなり影響を与えるとみな口を揃えます。

そんな情報を集め、授業では、学生に曲線だけを見せ「転換点で何があったと思うか」を話し合わせます。これを繰り返させていると、学生は「何かしらの目的や目標を持たなければスキルは伸びにくいようだ」という事実に気付きます。「そんなこと当たり前」という声が聞こえてきそうですが、文系の学部生がこれを持ち合わせるケースは、学校を問わず多くありません。

余談ですが、日本でも有数のミュージカル劇団にダンサーとして所属する私の妹の最近の悩み事が「新人の動機付けをいかに作り、前向きに取り組ませるか」だということで笑ってしまいました。あれだけ方向性が示された中に集まる若手すらそうなのですから、何にも考えず偏差値に合った大学に進学した学部生に何かを求めるのは酷というのが実態です。

授業の中で、それぞれが探り合った可能性を発表してもらおうと、本当に色々なアイデアが出てきます。曲線が急に下がるシーンでは「犯罪を犯し刑務所に入ったはずだ！」というアイデアが飛び出ます。

こんな？→→  
アホな！



ピントがいい子は、ワークに取り組む初期から「結婚」もキャリアに大きな影響を与える転換点だと知っていますが、半数以上は、その出来事に「結婚」を思いつきません。それは、誰かがその可能性を指摘した際に、「お～（その手があったか）」という声がかかることからわかります。大事なことは、正解を当てることではなく、可能性に思いを巡らせておくこと。その可能性は自分にも起こるかもしれないということを知っておくことです。

## 心構えが 結果をつくる

「他人の人生に起こる悲劇は、自分には起こらない」。文面だけ見ると「そんなアホな」と突っ込みたくなりますが、キャリアにおいて大半の学生はそう考えています。だから実際に人から尋ねた 32 歳転落人生の曲線を見せると、学生は「ここをこうすればよかった」と批評家に早変わりするものの、それが自分に起こるかもしれないとは考えません。だから私は最後に「この男性も、大学を卒業するときにはこうなるとは露にも思っていなかったはずだ」と付け加えます。さらに「この男性の大学生時代と、今のキミたちの大学生時代に、何か差があるだろうか？」と言い添えます。

果たしてキャリアとは何だろう？ 良いキャリアが導く豊かな人生とは何だろう？ このネタに学生が興味を示し始めるのは「ようやくこの後」といったところでは。

### 団遊（だん・あそぶ）

アソブロック株式会社代表、有現会社 ea 代表、ホンブロック発行人、立命館アジア太平洋大学非常勤教師（キャリア教育）等、“環境に変化と刺激を起こすモノづくり・コトづくり”をモットーに幅広くプロデュース活動をしている。最近では地域活性の種作りに注力中。

東京を会場に「団士郎家族理解ワークショップ」も隔月開催中（偶数月第二土曜日）。

<http://danasobu.com>